

2022年度 成年後見人材育成研修 募集要項

成年後見人等候補者を養成する研修として、成年後見人材養成研修（認定社会福祉士認証・認定機構による認定研修・4日間）を下記の要領で開催する予定です。本研修の修了者は、受任候補者を養成する「名簿登録研修（1日間）」を修了し、権利擁護センターぱあととなあ成年後見人候補者名簿に登録することになります。（※別途名簿登録料が必要です）

1. 主催 一般社団法人兵庫県社会福祉士会

2. 研修区分 認定社会福祉士認証・認定機構による認証研修 認証番号：
「分野専門（高齢）ソーシャルワーク機能別科目群 後見制度の活用（成年）2単位」

3. 研修目標 ①専門職後見人として社会福祉士が身につけるべき知識・技術を習得し、権利擁護センターにおける成年後見人としての一定の力量を確保すること。②地域で相談援助にあたる者が、成年後見制度活用の知識、技術を習得すること。成年後見人等として実務を担う社会福祉士（成年後見人等受任候補者）の養成を目的とする。

4. 開催日

第1日目	2022年 8月27日（土）9時10分～17時00分 ※全日程受付は9:00～
第2日目	2022年 9月14日（水）9時10分～16時30分
第3日目	2022年10月9日（日）9時10分～16時30分
第4日目	2022年11月3日（祝・木）9時30分～16時00分

※名簿登録研修 2022年12月11日（日）9時30分～17時00分

5. 会場 第1日目から3日目は、Zoomミーティングを使用したオンライン研修
第4日目と名簿登録研修は、集合し「兵庫県福祉センター1階 多目的ホール」で開催
(神戸市中央区坂口通2-1-1 JR灘駅より徒歩約10分 阪急王子公園駅 徒歩約10分)

6. 受講対象 次の要件のすべてを満たす者

- (1) 兵庫県社会福祉士会会員。または、本会と契約を交わした都道府県社会福祉士会に所属する社会福祉士。
- (2) カリキュラムの全課程を出席できる者
- (3) 日本社会福祉士会の基礎課程を修了している者、若しくは2011年度までの日本社会福祉士会の旧生涯研修制度の共通研修課程を1回以上修了している者
- (4) 2022年4月1日現在70歳未満の者（兵庫県会員のみ）

7. 定員 50名 ※なお、受講申込者が一定数に満たない場合は、研修開催を中止することもあります。

8. 受講費 5万円（別途市販テキスト代、約14,000円が必要となります。）
※一旦、納入された受講費は、主催者の責による場合以外は返金いたしません。
※成年後見人材育成研修の受講料です。名簿登録研修は、受講料は不要です。

9. 第1日目から第3日目は、Zoomミーティングによるオンライン研修です。

①研修の参加には「個人情報等の取り扱い等に関する注意事項」「オンライン研修の受講方法について」「研修資料の著作権について」各事項に同意をしていただく必要があります。別紙ご確認ください。

②研修開始前、研修中にすべてオンライン研修に変更になった場合等、受講費の支払い後は受講費の変更、返還はありません。ご承知おきください。

10. 申込 下記のQRコードもしくはURLから研修申込フォームにアクセスし、必要事項をご入力ください。回答後に自動返信メールが届きますので、メールを保存してください。

Google フォームの URL

<https://forms.gle/DQqx5oefl1fp3KNX6>

または、別紙申込用紙にご記入の上、郵送・FAX
メールにて事務局へお申し込みください。



- ◆申込先 兵庫県社会福祉士会事務局(電話での申込みは受付していません。)
- ◆申込期間 2022年4月11日(月)～22日(金) ※郵便・FAXは締切日内に必着。

10. 受講決定 受講決定は、あらかじめ決められた定員に基づき、兵庫県社会福祉士会にて決定します。

11. 受講可否の連絡等

- ・受講可否は、5月下旬までに郵便にてご連絡します。
- ・受講申込が一定数に満たない場合は、研修開催を中止することがありますのでご了承ください。
- ・会場案内、受講費の納入方法、テキストの購入方法、事前課題、およびキャンセル等の扱いについては、受講可否の連絡時にご案内します。

12. 修了要件 研修の修了には、次の基準を満たす必要があります。

- ・面接授業の出席が100%であること(オンライン研修の場合は、画面上で出席確認)
- ・事前課題の提出すること
- ・修了評価で一定の水準を満たすこと
- ・15分以上の遅刻・早退があった場合は、その課目を欠席したものとみなす。

(また、15分未満の遅刻・早退は5回で1課目に相当する欠席とみなす。面接授業を欠席した課目数が4課目以内(修了評価をのぞく)の場合は、1期(1年間に限り受講期間の延長を認め、翌年度に欠席した課目を履修し修了評価にて合格することで、本研修を修了することができる。)

13. 研修単位について

(1) 公益社団法人日本社会福祉士会の生涯研修制度においては、新生涯研修制度では専門課程の2単位となり、旧生涯研修制度では「専門分野別研修」となります。

(2) 本研修は、認定社会福祉士制度の研修として認証されています。

認証科目：後見制度の活用(成年)(分野専門/高齢分野、ソーシャルワーク機能別科目群)

単位数：2単位

認証番号：20180005

注：分野については、認定社会福祉の認定申請をするときに、自身の申請をしようとする分野の単位として扱うことができます。「後見制度の活用(成年)」は、高齢分野のほか、障害分野、医療分野、地域社会・多文化分野の認定申請者も各分野の単位として扱うことができます。

14. カリキュラム (1) 講義・演習等：4日間23.5時間 (2) 事前課題：指定する6科目

問い合わせ先	兵庫県社会福祉士会 事務局(担当 北野)
申込先	〒651-0062 兵庫県神戸市中央区坂口通2-1-1 兵庫県福祉センター5F 兵庫県社会福祉士会 ぱあとなあ兵庫事務局 partner-jimu@hacsw.or.jp TEL : 078-222-8107 FAX: 078-265-1340

2022年度成年後見人材育成研修 カリキュラム

使用テキスト ①『権利擁護と成年後見実践』（メインテキスト） ②『後見六法』 ③『専門職後見人と身上監護』
④『成年後見実務マニュアル』 ⑤参考資料集等

	課目	課目の目標	時間(分)	形態	講師	使用テキスト					課題	
						①	②	③	④	⑤		
1日目 (390分)	0 研修ガイダンス 9:10～9:40	1 研修の目的を確認する 2 研修概要、スケジュール、事前課題とその取り扱い等を理解する 3 受講における留意点及び修了要件を理解し、受講姿勢を明確にする	30	講義	社会福祉士						○	
	1 成年後見制度の解説 9:50～11:50	1 成年後見制度が成立した背景及び制度の趣旨と理念を理解する。 2 法定後見制度と任意後見制度の概要を理解する。 3 成年後見制度の周辺にある制度を理解する。 4 弁護士や司法書士等の専門職との連携について理解する。	120	講義	弁護士	○	○	○			○	●
	2 成年後見活動における判断能力のとらえ方 12:50～13:50	1 成年後見制度における診断書、鑑定書について理解する。 2 認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等を理解するために必要な医学的知識を修得する。	60	講義	精神科医	○	○					
	3 社会福祉士と成年後見～権利擁護の視点から 14:00～17:00	1 社会福祉士の専門性を活かした権利擁護の視点を理解する。 2 権利擁護の諸制度や成年後見制度の課題と最新動向を理解する。	180	講義	社会福祉士	○	○	○			○	
2日目 (360分)	4 財産法の基礎 9:10～11:10	成年後見制度活用のための財産法の基礎的知識を修得する。	120	講義	弁護士	○	○					●
	5 家庭裁判所の実務の理解 11:20～12:50	1 家裁における後見担当部局の概要(裁判官、調査官、書記官それぞれの役割)を理解する。 2 家裁における家事審判手続きについて理解する。 3 不正防止への取り組み(監督人の選任、後見支援信託)について理解する。	90	講義	神戸家庭裁判所主任書記官・裁判所書記官	○	○				○	
	6 財産管理のための知識 13:50～15:20	1 成年後見制度活用のための財産管理の基本的事項を理解する。 2 財産管理に必要な具体的方法に関する知識を修得する。	90	講義	司法書士	○	○		○	○		
	6 後見事務の実際1 15:30～16:30	具体的事例を通して、財産管理の方法を理解する	60	報告解説	事例発表者 社会福祉士	○	○		○			
3日目 (360分)	8 家族法の基礎 9:10～11:10	1 成年後見制度活用に必要な親族法の基礎知識を修得する。 2 成年後見制度活用に必要な相続法の基礎知識を修得する。	120	講義	弁護士	○	○					●
	9 身上監護のための知識 11:20～12:20 13:20～14:50	1 身上監護とされる項目を修得する。 2 成年後見制度活用上の留意点に配慮できるようになる。 3 権利侵害に対抗できる手続きを理解する。	150	講義	社会福祉士	○	○	○	○	○		
	10 後見事務の実際2 15:00～16:30	具体的な活動事例を通して身上監護の方法を理解する	90	報告解説	事例発表者 社会福祉士	○	○	○	○	○		
4日目 (300分)	11 演習1 ニーズの把握と対応 9:30～11:30	1 権利擁護ニーズについて理解する。 2 権利擁護に関わる制度の特徴と活用方法を理解する。	120	演習	社会福祉士	○	○		○			●
	12 演習2 ネットワーク活用による権利擁護(それぞれの立場での権利擁護実践) 11:40～12:40 13:40～14:40	1 制度の限界を理解する 2 権利擁護について社会福祉士がとるべき態度について理解する。	120	演習	社会福祉士	○	○		○			●
	13 今後の活動について 14:50～15:50	1 研修を振り返り、成年後見人に必要な知識・技術を共有する。 2 成年後見制度を活用するために必要な知識の理解度を確認するため、修了試験を行う。	60	講義	ばあとなあ兵庫運営委員	○	○				○	●